



行谷小学校 学校だより

日本一のトキの学校

トキっ子

第4号[7月号]



令和2年7月29日発行

シリーズ「新型コロナウイルスに負けるな！」

続・学校の新しい生活様式 = 自ら学ぶ力を育てる =

教育現場が大きく変わりました。

朝の検温、マスクの着用、1時間ごとの手洗い、遊びの種類と場所を限定した休み時間、対面しないで食べる給食の時間、そして、密閉・密集・密接を避けた授業など、感染症対策と学びの保障の両立を図る「学校の新しい生活様式」もようやく定着してきました。

明日、1学期の終業式を迎えます。

昨年までは、終業式を実施できることは「当たり前」のことでしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、今では「当たり前」ではなくなった現実があります。

島内の感染状況も心配される中ではありますが、保護者・地域の皆様のご支援とご協力のおかげで、通常の教育活動を実施できることに、改めて感謝申し上げます。

さて、ここ十数年来、一生の間に一度あるかないかと思うような出来事が起きている気がします。

震災や新型コロナウイルス感染症は言うまでもなく、記憶に新しいところで、今月、熊本県を中心に九州や中部地方など日本各地で発生した集中豪雨がありました。

「これまでに経験したことのないような…」 「数十年に一度の…」 といった表現も、たびたび耳にするようになりました。

もうすでに、「将来の変化を予測することが困難な時代」に突入しているかのようです。

今こそ、予測困難で正解のない社会の中で生きていることを自覚して、主体的に情報を集め、自ら考え正しく判断し、よりよい答えを導き出すことができる生き方が必要です。

新型コロナの影響で、学校が再三にわたり休業になり、子どもたちは、一人で学習する機会が増えました。

このような中、改めて考えさせられたことは、「学校は、子どもたちに『自ら学ぶ力』を育てることができているのか」ということです。

「自ら学ぶ力」の育成は、今年度から本格実施されている新学習指導要領の理念でもあります。

予測できない未来に対応し、よりよい社会と自分自身の幸福な人生を切り拓いていくためには、社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に対象と向き合い、自ら考え、判断し、本質を見極めつつ、問題を解決する力が必要です。

オンライン授業をはじめとしたIT環境の整備、一人一台の学習端末と高速大容量・通信ネットワークを目指すGIGAスクール構想が急速に進んでいますが、子どもたちに「自ら学ぶ力」を育てることが、もっとも本質的で効果的なコロナ対策ではないかと考えます。

子どもたち一人一人の可能性を伸ばし、新しい時代に求められる資質・能力を確実に育成していくこと、そのために求められる学校の在り方や存在意義を明確にすることを、これからも大切にしていきたいと思えます。

例年と比較して少し短い夏休みが始まります。

単なる「休み」ではなく、一人一人が自分が決めた課題に向かって自ら進んで学び、自分自身の可能性を思う存分発揮することができることを期待しています。

ご家庭でも、3密を避けた「新しい生活様式」を実践し、お子さんの安全・健康管理にはくれぐれも留意され、ご家族そろって充実した夏休みをお過ごしください。

1学期のご支援とご協力、本当にありがとうございました。

(校長 笠井 猛雄)